



阪神・淡路大震災のときに多くの命を 救った地いきの助け合い

「この家は、ばあさんがげん関わき^{かん}にねているぞ。」
「子ども部屋は台所の上だ。」



(写真提供 神戸新聞社)

淡路島の旧北淡町^{あわじ きゅうほくたん}は、兵庫県南部地震^{ひょうご なんぶ じしん}の震源地^{しんげんち}に近く、多くの建物が全半かい^{たてももの がい}となるひ害^{がい}を受けまし

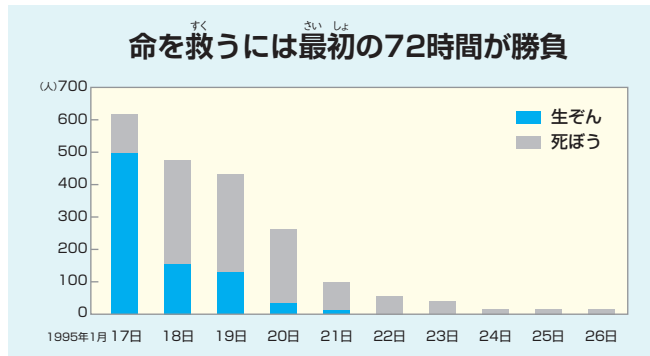
た。しかし、この町では、地いきの人が近所^{きんじよ}の家のじょうほう^{じょうほう}を持ちより、がれき^{がれき}の下で消えそうになった命^{いのち}を次々に助け出しました。そして、地震発生^{じしん 発生}から約11時間後^{やく 11 じかん 後}、自えい隊^{自衛隊}がとう着するまでに、生ぞん^{きんぞん}していた人、なくなった人、すべての救出^{きゅうしゅつ}を終えていたそうです。

地震^{じしん}の直後^{ちくご}、このような助け合い^{たすけあひ}は各地^{あちこち}で行われました。阪神・淡路大震災^{はんしん あわじ だいしんさい}ではかいされた家屋^{いえ}から救出^{きゅうしゅつ}された35000人のうち、27000人は近所^{きんじよ}の住民^{じゅうみん}に救出^{きゅうしゅつ}されたといわれています。

さい害^{さいがい}時の救命救助^{きゅうめいきゅうじよ}はスピードが大切です。最初^{さいしょ}の72時間^{72 じかん}（3日間）がかぎといわれています。しかし、大地震^{おお じしん}のときは、各地^{あちこち}で同時に生きうめ^{いきうめ}になったり出火^{しゅつか}したりするので、ひさい地の消ぼう^{しょうぼう}やけい察^{さつ}だけでは救命救助^{きゅうめいきゅうじよ}の人数^{にんすう}が足りません。全国^{ぜんこく}の消ぼう^{しょうぼう}やけい察^{さつ}のおうえん^{おうえん}のとう着^{とうちやく}は早くても2日目^{2 じつ}、3日目^{3 じつ}となります。

このようなじょうきょう^{じょうきょう}で、多くの命^{いのち}を救う^{すく}のは住民^{じゅうみん}の助け合い^{たすけあひ}です。消ぼう^{しょうぼう}やけい察^{さつ}が十分

命を救うには最初の72時間が勝負



阪神・淡路大震災 神戸市消防局の対応

につかんでいない家族^{かぞく}のじょうほう^{じょうほう}も、近所^{きんじよ}の住民^{じゅうみん}なら知っていることがあります。日ごろから地いきの人^{あつちいきの人}とつながり^{つながり}をもっていれば、いっそうの防災^{ぼうさい}・減災^{げんさい}につながるしょう。